

検討項目に係る各委員の意見

<全般>

- ・すぐに出来る対策と中長期的な対策とを分けて手引きを記載すべきである
- ・事故には至らなかったものの、危険があったという、“ヒヤリハット”の事例を収集し、共有の財産とすることが重要

<工期設定等>

- ・緊急を要さない工事は、発注時期を調整し雨季を避ける
- ・長期の管内作業を伴う工事は、雨季に主たる作業は行わないような工期設定を行う

<作業中止基準>

- ・予め施工箇所の危険性を把握し、自らリスク対応を行うことが重要
- ・流量増加による水位、流速の関係を知らずとも危険性の把握方法の一つ

<気象情報の入手>

- ・気象予測の限界を把握した上で、それらを組合せてうまく活用する必要
- ・現場でパソコンや携帯電話等を活用して常に最新の気象情報を把握する
- ・アメダスや地上雨量等、民間気象情報などの複数の気象情報を活用する
- ・気象情報のみならず、現場上空や上流域方向の空模様により、中止基準を判断する

<情報の伝達>

- ・作業箇所やマンホール深を考慮した伝達方法の選定する
- ・サイレン、赤色灯、ホイッスル等の活用

<安全性を考慮した作業計画の立案>

- ・退避時間を考慮した安全対策等の立案が必要
- ・迅速な退避のための下流側マンホールの開放が有効
- ・増水時を考慮した服装の着用が有効(水を含まない生地など)
- ・資機材よりもむしろ人命優先の計画が必要
- ・入坑者把握のための名板の設置
- ・流出防止柵の設置や足掛け金物がない場合は地上までの梯子等を設置する

<平時における取り組み>

- ・講習会や訓練の開催による危機管理意識の向上と継続
- ・安全管理面における発注者と受注者の意見交換や施工計画の確認
- ・連絡体制の確立と対処方法の明確化、周知の徹底

<その他>

- ・有資格者の配置
- ・安全費の積算
- ・施工機械の保険加入
- ・降雨時以外の増水の危険性の把握